

十五日午前九時二十分出發、行くこと數町、幅約二百米突、水幅約十米突なる無名河を渡り、次で十數町、再度幅約二百米突、無水の河を超え、ハントン村、アルクン村を経て行程約十里連水泌に到りて宿す。

ハントン村は路上數個の密集人家より成り、全部を算すれば五百有餘戸、耕地八千畝あり。アルクン村は人家四百餘、耕地五千餘畝、連水泌は人家四百餘戸、耕地一萬畝を有し、旅店七八戸を設けたり。以上共に飲料には河水、井水を併用し、燃料には柳、楊、榆并に天山南麓より出せる有烟炭を用ひて供給餘あり。

十六日連水泌を發して無名の一小河を渡り、蘇巴泌、勝金臺を経て、行程約十二里、勝金口に到る。此の三部落は皆纏頭のみにて、農業に従事し、獨り勝金臺附近に於て羊、牛、驢、馬を牧畜するを見たり。

十七日三十里墩を過ぎ、行程約前日と同じく、新疆の一都會たる吐魯番城に着す。

六 吐魯番

吐魯番(回語都府の義)は東經八十九度四十四分、北緯四十二度四十分に位置し、北京を距ること實に千二百六十九里に在り。城は廣安と稱へ、壁の高さ一丈六尺、頂の厚さ

全村總て纏頭

地形